

UNIVERSITY
JOURNAL

全大教時報

Vol. 42 No. 2
2018.6

**ブレイク・スルーは科研費ではなく、
最低保障された自由な研究費から生まれる**
村井 淳志 <金沢大学学校教育学類 教授>

**大学共育と平和学
～学生が平和のための学びの主人公になる(中)**
和田 寿博 <愛媛大学法文学部 教授>

**ローカル線で行く! フーテン旅行記(18)
ーローカル線の明暗!ー**
大西 孝 <岡山大学工学部 助教>

Contents

● ブレーク・スルーは科研費ではなく、
最低保障された自由な研究費から生まれる

村井 淳志（金沢大学学校教育学類 教授）

1

● 大学共育と平和学

～学生が平和のための学びの主人公になる（中）

和田 寿博（愛媛大学法文学部 教授）

10

● ローカル線で行く！フーテン旅行記 18

—「西郷どん」の故郷 鹿児島県の2つの半島を巡る！—

大西 孝（岡山大学 工学部 助教）

20

ブレイク・スルーは 科研費ではなく、 最低保障された自由な 研究費から生まれる

金沢大学学校教育学類 教授
全国大学高専教職員組合中央執行副委員長

村井 淳志



専門は歴史教育・社会科教育。教育内容論に関わり、いのち、映画、江戸時代の経済史など研究範囲は広い。著書に、『学力から意味へ 安井・本多・久津見・鈴木各教室の元生徒の聞き取りから』草土文化 1996、『歴史認識と授業改革』教育史料出版会 1997、『「いのち」を食べる私たち ニワトリを殺して食べる授業「死」からの隔離を解く』教育史料出版会 2001、『脚本家・橋本忍の世界』集英社新書 2005、『勘定奉行荻原重秀の生涯 新井白石が嫉妬した天才経済官僚』集英社新書 2007、など多数。

校費が減らされている深刻な事態

国立大学の教員の研究費（自由に使える校費）が極度に削減されている。大学によって差はあるが、つい数年前まで 80 万円が支給されていたが、今年は 10 万円だ、などという極端にひどいところもある（東北地方の某国立大学、理学部）。これでは最低限の施設の維持さえままならず、まして新規の研究などできるわけがない。教員を一人雇用していれば 800 万円からの人件費がかかるのに、その人を研究できない状態に置くことは、人件費分の国家的損失ではないだろうか。

そのことを文部科学省との交渉で言うと、「いや、研究費予算の総額は増やしています」との返答。それは科学研究費など、いわゆる「競争的資金」が増えているためだ。競争的ではない、つまり何に使うのかをいちいちお伺いをたてなくて済む研究費、すぐに使える研究費である校費の配分額は各大学が決めるのだから、本省のお役人としては知ったことじゃないのだろうが、こっちの方は恐ろしい勢いで削減されているのが現状だ。

校費が減っても科研費があればいいでしょ、というのが文科省の言い分なのだろう。それは多くの私学経営者の考えでもあり、「研究費は自分でとって来い、それができない研究者は無能なのだ」と、大学から支給される研究費がゼロ、という私学も少なくない。

さらに深刻なことに、科研費を研究代表者として取ってくる、というのは研究者としての「実績」にカウントされるようになってきた。たとえば金沢大学では、現学長が就任した 4 年前から、代表者として科研費獲得の実績がなければ、教授にも准教授にもなれなくなってしまった。これは明らかに、倒錯した異常事態である。研究費はあくまで手段であって、研究成果ではなく、研究手段の獲得実績を絶対基準にするなど、どう考えてもおかしい。同じように優れた研究成果を上げていて、片方は科研費という税金を使って、もう片方は少額の校費だけを使って成果を上げていたとして、前者は教授にふさわしい、後者はふさわしくないなどと判断するとは、もう減茶苦茶としか言いようがない。

科研費からはブレイク・スルーは生まれない

こうした極端な倒錯状態は論外としても、先の文科省のように、「科研費があれば、校費が減ってもいいじゃないか」という意見はかなり一般的だろうと思われる。これに対して、正面から異論を唱えるのが本稿の目的である。

言いたいことを箇条書きすると次のとおりである。

1 科研費にはあらゆる意味で、自由がない。時間にも、計画にも、精神にも。要するに「失敗の自由」が認められていないのだ。失敗を恐れている研究者が革新的な研究成果を生み出せるはずはない。

2 科研費は学会ごとに審査される。したがって、学会に所属していない研究者には、初めから申請権を与えられていないのに等しい。しかし往々にして、インナーサークルのメンバーが思いつきもしないようなアイデアが、アウトサイダーから提起される場合がある。そしてブレイク・スルーは、そうしたアイデアから生まれるものだ。

3 私自身はまさに、上記のような革新的な研究成果を目指してきた。代表者として科研費を獲得したことは一度もない。しかし5冊の単独著書を書くことができたし、いずれも引用回数が非常に多い、革新的な研究成果だったと自負している。

以下、かなり手前味噌になるかも知れないが、一番説明しやすいので、私自身を実例にしながら、本稿の趣旨を敷衍していきたい。

拙著『勘定奉行 荻原重秀の生涯』の場合

私 はこれまで、5冊の単独著書を執筆してきた。その中でも数多く引用された著作は、『勘定奉行 荻原重秀の生涯』（集英社新書、2007年）である。どれくらい引用されたか、概観しておこう。

【野口武彦（神戸大学名誉教授、近世文学）】

「書評委員 今年の3点」（朝日新聞 2007年12月23日付）

「うっかりいい本を見落としていた。元禄貨幣改鑄の悪役として扱われてきた重秀の《名誉回復》を試みる力作である。断片的な史料を博搜して復原する史料調査が行き届いている。重秀は政敵の新井白石にいじめ殺されたと主張する結末がパセティックだ。」

【飯田泰之（駒澤大学准教授、経済学）】

『歴史が教えるマネーの理論』P.135（ダイヤモンド社 2007年7月）

「(荻原重秀の註として) …経済官僚として手腕を評価されて150俵取りの微禄から出発して勘定奉行にまで出世した人物です。賄賂政治の代名詞のように伝えられている人物ですが、資料上は根拠が薄弱なようです。詳しくは村井淳志『勘定奉行 荻原重秀の生涯』（光文(マ)社新書 2007年）を参照してください。」

【島内景二（電気通信大学教授、近世文学）】

『柳沢吉保と江戸の夢』P.293（笠間書院 2009年7月）

「貨幣鋳造に関しては、村井淳志氏『勘定奉行 荻原重秀の生涯』（集英社新書・2007年）が、悪役とされてきた荻原重秀の名誉回復を企図している。…ちなみに村井氏による荻原重秀の再評価は、溜飲が下がる。…膨大な史料を読み解いて重秀の本質に迫った手腕は見事である。」

【若田部昌澄（早稲田大学教授、財政学）現・日本銀行副総裁】

『もうダメされないための経済学講義』P.139（光文社新書 2012 年 9 月）

「第一講でも少し触れましたが、江戸時代に荻原重秀という人がいました。1658 年に生まれて 1713 年に亡くなった人で、時代としては徳川綱吉から家宣までとほぼ重なります。同時代に、重秀よりはだいぶ有名な新井白石もいました。…ちょっと前までの日本史や時代物では、新井白石ばかりが人気で、荻原重秀は悪人扱いでしたが、金沢大学教授の村井淳志氏などの著作により、だいぶ復権が進んできました。」（以下、6 頁にわたって拙著の紹介）

【茂木誠（駿台予備校世界史担当講師）】

『経済は世界史から学べ！』P.239（ダイヤモンド社 2013 年 11 月）

「読書案内 『勘定奉行 荻原重秀の生涯』 村井淳志著（集英社）2007 年

江戸幕府の財政危機を打開し、元禄バブルを現出させた有能な経済官僚でありながら、儒学者の新井白石に糾弾されて失脚、腐敗官僚の権化のように貶められてきた荻原重秀の実像に迫る。歴史は、それを書く者によって『作られる』ことを改めて痛感する。」

【藤田覚（東京大学名誉教授、日本近世史）】

『勘定奉行の江戸時代』P.61 ～（ちくま新書 2018 年 2 月）

「質の劣る貨幣の大量鋳造は、当然のことながら物価に影響を与えた。これまで貨幣の改悪は物価の騰貴を引き起こしたと言われてきた。しかし近年、村井淳志氏『勘定奉行 荻原重秀の生涯』（集英社新書 2007 年）は、改鋳後 11 年間の名目米価の上昇率は 33%、年率 3%に過ぎないことから、改鋳により物価が騰貴したという説に疑問を投げかけた。」

これ以外にも、参考文献に挙げられた例は数知れない。

藤田氏の場合は、批判的な文脈で引用された例だ。しかし藤田氏のように日本近世史の大御所が、批判的にせよ引用したということは、それほど無視

できない影響力があったことの証左に外ならない。

しかもここで強調しておきたいことは、上記で私の著作を引用してくださった方々と、私は一面識もない、ということである。学会などで旧知の間柄だから引用して下さったのではなく、私が主張した学説の重要性を認めて下さったのだ。

なぜ専門家でない私が被引用数の多い著作を書けたのか

なぜ日本近世史を専門としない私（専門は教育学、中でも歴史教育・社会科教育を担当）が、専門家がこぞって引用せざるを得ない成果を生み出すことが出来たのか。逆説的だが、それはまさに私が日本史学会に所属する専門家ではなかったから、である。

社会科教育が扱う領域はとてつもなく広い。日本史だけではなく世界史、経済学、法学・政治学、倫理学の一部まで教えなければならない。当然「狭く深く」はダメ、かといって「広く浅く」でもいけない。もちろん「広く深く」出来ればよいのだが、そんなスーパーマンはいない。で、どうするかと言うと「広く浅く、ときどき深く」がベストアンサーなのだ。私の著作一覧を見た人は、「この人の専門は何ですか」と不思議に思われる。元々の専門が分からないほどカバーする領域を広くとりながら、「ときどき深く」研究した成果が著作となって結実するわけだ。

そしてそのことは、狭い専門分野を深く研究してきた人には気づくことの出来ないイノベーションを巻き起こすことがあり得る。イノベーションというと「技術革新」と訳されることが多いが、言葉の発案者である経済学者のシュンペーターによれば、「思いもよらない組み合わせの考案」もイノベーションに含まれる。そうした意味でのイノベーションを引き起こすためには、「広く浅く、ときどき深く」は非常に有利な立ち位置になる。

萩原重秀の例でいうと、「日本近世史における人物研究」×「新古典派経済学の貨幣論」という組み合わせである。日本近世史の研究者は、人物研究

の手段を熟知しており、何よりも必須技術である「古文書読み」に精通している。古文書読みの技術はアウトサイダーにとってはとてつもなく高いハードルで、新しい外国語の習得にも等しい。だから通常は、学会に所属していない学者、古文書もろくに読めない学者が、優れた業績を出せるはずがない、と考えられがちである。

しかし私は以前から、日本の歴史研究には弱さがあると思ってきた。というのは、日本史学会は依然としてマルクス主義の影響が強く、歴史学者のなかで新古典派経済学（いわゆる近代経済学＝近経）に精通した人、もっと具体的に言えばケインズ全集（東洋経済新報社）を読んだことのある人は、ほとんどいないことだ。ケインジアンの立場から言えば、金本位制や金属貨幣は「人類の敵」である。貨幣生産が貨幣需要に応えられない段階が必ずやってきて、デフレを引き起こし、世界大戦の遠因となった。なぜ貨幣の質を落として量を増やした荻原重秀の政策が非難されなければならないのか、理解できない。

そこで私は、「古文書読み」の技術を最低限マスターして原史料に当たりながら、理論的な枠組みはケインジアンの仮説に添って調べてみた。仮説は以下のようになる。

【仮説 1】

人類史的に見れば、商品交換は次のように進行する。

自給自足（交換なし）→ 物々交換（直接交換）→ 実物貨幣（米、塩、布、金属）を仲立ちにした間接交換 → 名目貨幣（不換紙幣など）による交換（IMF 設立以前はハイパーインフレのリスクがあり不安定）→ 名目貨幣による交換（IMF のバックアップにより、通貨危機が生じてもハイパーインフレは回避される）

こうした長期的で鳥瞰的な図式の中に荻原重秀を位置づけてみると、実物貨幣から名目貨幣に初めて楫を切った人物として、高く評価できるのではないか。実際、荻原重秀の言葉として、次のような発言が見つかった。

「貨幣は国家が造るところ、瓦礫をもってこれに代えたと雖も、まさに行う

べし」(『三王外記』による)

金など含まれていなくてもかまわない、国家が「これが1両」と決めたらそれが1両なのだ、というわけである。

【仮説2】

デフレ・ギャップが深刻な状態(労働力や生産設備が、資金がないためだけの理由で、稼働せず遊休状態におかれていること)では、貨幣発行量を増やしても物価が上がらないことがあり得る。貨幣量の増加により、生産が再開され、供給が増えるためである。

日本近世史の専門家は、このことをご存じない方が多いのではないだろうか。そして実際、私が当時の米価を調べてみると、物価は年率3%程度のマイルドインフレに過ぎないことが分かった。上記のことを知らなければ、貨幣供給を1.5倍に増やせば、物価も50%あがるはずだ、と思い込みがちである。

【仮説3】

日本近世史の常識である「三大改革」というフレームは根本的に間違っているのではないか。江戸時代が貨幣受給の逼迫したデフレ状態だとすれば、デフレ時に政府支出を削減し貨幣供給を絞った「享保の改革」は、ケインジアンから見れば、もっともやってはいけない政策であり、むしろ支出を増やした徳川綱吉や、その財源を貨幣改鑄で賄った荻原重秀は評価されるべきではないか。

こうした、高校生でも分かる理屈が、日本近世史研究の専門家には通用していない。徳富蘇峰以来の、一張一弛史観(ゆるんだ時代と緊張した時代が交互にやってくる、という見方)に支配されている。学会の内部から荻原重秀を評価する著作が生まれるはずはなかったのだ。

パラダイムを破壊するブレイク・スルーは学会以外から

日 本史学会に所属していない私は、当然、日本史研究で科学研究費を獲得できるわけがない。また日本史学会に挑戦しようとする者が、日本史学会のボスたちにお金を下さいと申請するなど、精神の自由にもっとも反する。だからこそ、私は一度も科学研究費を申請したことはなく、いつも校費で研究してきたのだ。もちろんこの荻原重秀研究もそうである。

以上の私の例から分かることは、学会のボスたちが審査する科学研究費から、パラダイムを破壊するようなブレイク・スルーは生まれない、ということだ。

次に引用するのは、2018年5月6日付の東京新聞（中日新聞）の社説の一部である。

「プルチーノ准教授らは、別のシミュレーション実験もしています。テーマは、科学研究資金の最も効果的な配分方法です。

配分方法のモデルは（１）研究資金をすべての科学者に均等に配分する（２）一部の科学者にランダムに配分する（３）過去の実績の良い科学者に優先的に配分する—の三種類。最大の効果が得られたのは（１）の均等配分でした。

「実績のある科学者とは、過去に幸運に恵まれたということであって、将来も幸運に恵まれるとは限らない」と説明しています。幸運をうまく生かした科学者が成功するというのです。」

当然といえば当然だろう。現在文部科学省がやっている、校費を減らして科学研究費を増やす政策は、まさに明日の科学を窒息させる愚策であり、こんな国には未来がないことは明らかではないだろうか。

大学共育と平和学 ～学生が平和のための 学びの主人公になる(中)

愛媛大学法文学部 教授

和田 寿博



1963 年兵庫県生まれ。日本平和学会会員。戦前戦後の企業経営を専攻し、戦争体験記録に取り組んでいる。学生の広島・沖縄・韓国・中国・台湾などでの平和友好の旅を支援している。

※大学共育と平和学 ～学生が平和のための学びの主人公になる (上)
<http://mjk.ac/dwZJas> (短縮 URL)

3. 平和学の授業でおじいちゃん、おばあちゃんの戦争体験を知る

私 は平和学の知見を踏まえ、「おじいちゃん、おばあちゃんの戦争体験」を記録している。体験者は軍人・兵士、一般人（父母、兄弟姉妹、子ども等）、性別、年齢、居住地、国籍、民族など多様で、その体験も暮らし、戦場、戦闘、空襲、被爆、死亡・戦傷、被災、復興等多様だ。平和な人の人生は似ているが、戦争体験のある人の人生はそれぞれに違っている。生死にかかわる体験の中での怒り、嘆き、悲しみ…安堵や平安の願い。戦後70年の間、戦争体験を家族や知人にも話したことがない方が多かった。戦争体験

者は高齢であり、記録するには「時間がない」。学生は強い関心を持ち、真剣に聞き入り、感想を述べ「ありがとうございました」と感謝を申し上げるようになった。

大学職員も戦争体験を知る機会は少なくなっているのです、あらためてその一部を平和学の授業にそって紹介したい。平和学の授業の第1回～第2回ではGHQ/SCAPの撮影した写真や映像、市民から提供を受けた写真・史料などを活用して、「松山・愛媛県空襲・戦災」「愛媛大学も戦地だった」ことを伝える。受講生はほとんど初めて知る事実には驚き、関心を抱き、「知りたい、聞きたい」と感想を述べ、ここから平和のための学びの一步を踏み出す。

【愛媛県空襲・戦災—松山・愛媛大学】

下の写真は、私と平和学の受講生らが取り組む戦争体験記録の活動などにより卒業生から提供されたもので、授業で活用している。現在の愛媛大学城北キャンパス（松山市文京町）は、戦前、陸軍松山第22連隊の練兵場であった。愛媛大学関係者ならば、後景の御幸山と軍馬に乗る上官の位置から、そこが城北キャンパスの中心地であることを理解し、兵士の戦闘訓練、中高生らの軍事教練に一様に驚く。1945年7月26日の松山空襲の際には周辺の住



1944年当時の城北練兵場（現愛媛大学城北キャンパス）での戦闘訓練

<出所> 和田寿博・愛媛大学教授 提供

註：左写真の後方は御幸山、裾野に護国神社鳥居が見える。

右写真の後方は松山高等商業学校(旧松山経済専門学校、現松山大学)

民が逃げ込み、草むらや練兵のための塹壕などに身をひそめて一夜を明かした。戦前この地が戦地であり、戦後は学舎となり、将来、どのように活用するかは、学生と国民に委ねられている。

第2次世界大戦、アジア・太平洋戦争末期の愛媛県での米軍による市街地・民間人への空襲・戦災は愛媛県全域に及んだ。1945年1月31日、八幡浜市保内の山中への2個の爆弾投下が始まり、3月18日の八幡浜、3月19日の長浜・西条・新居浜、さらに4月26日と8月6日の今治、5月10日と7月29日の宇和島、7月26日の松山の市街地への大規模空襲、そして8月14日の大洲市と松野町に最後の空襲などが記録されている。東京大空襲・戦災資料センターが地域紙の記録から集計した愛媛県の民間人の空襲被害者数(2014年11月末)は1,207人(全国26番目の多さ)、近年の県内での集計活動によるとこれ以上の数になる見込みである。

米軍は、1945年2月17日、米軍艦載機が松山海軍航空隊と基地に最初の空襲を行った。3月19日、四国沖の空母群から呉軍港攻撃に向かった米軍艦載機F6Fヘルキャット等160機に対し、松山海軍基地に拠点を置く343海軍航空隊の紫電・紫電改が松山沖で激しい戦闘を行い、海軍にとって最後の



松山市南部から見た県庁・中心市街地の戦災(松山市提供)

戦果をあげた。5月4日、大型戦略爆撃機 B29 が松山海軍航空隊と基地に都合 17 機、70 発の爆弾を投下し、軍関係者・予科練生 69 人が死亡、169 人が負傷、近隣の住む民間人 7 人が死亡した。この頃から愛媛県では米軍の空襲は厳しさを増し、市街地の民間人を対象とした爆弾・焼夷弾による無差別爆撃が始まった。

7月26日、午後11時30分ごろ B29 の編隊が松山市の西方上空に達し、空襲を開始した。B29 は松山城を中心に時計回りに旋回し焼夷弾 896 トンを投下した。市街地の周辺部から火の手が上がり、わずか 3 ～ 4 時間で市街地の 9 割を焼失した。松山市の戦災は、被災面積 4.79km² (全市面積 87.81km²、被災比率 5.4%)、被災戸数 1 万 4,300 戸 (全市戸数 2 万 6,000 戸、被災比率 55%)、被災人口 6 万 2,200 人 (全市人口 11 万 7,400 人、被災比率 53%)、死者 251 人 (男 117 人、女 134 人)、行方不明 8 人、負傷者は数えきれないほどの被害であった。主な公共建築物はほとんど罹災し、石材やコンクリート製の県庁、市庁、裁判所、図書館、日本銀行、四国銀行などが焼け残った。

7月26日の松山空襲を体験した当時 10 代だった人は次のような体験を述べた。



＜松山空襲の体験を記録する＞

空襲経験者は城北練兵場（現愛媛大学）近くの川に多くの人が逃げ込んで一夜を明かしたことを語った

15 歳だった女学校 3 年生の女性は、B29 が「ゴロン、ゴロン」と不気味な音を出して飛来し、「ザー」という音を立てて焼夷弾が落ちてきたという。照明弾のためか、夜空に花火が上がるように見え、見とれながら石手川にそって東北に逃げた。

12 歳だった国民学校 6 年生の男性は、北の大川に逃げ、川辺で一夜を過ごした。翌日、松山城の東にある自宅に戻ると全焼しており、救護施設になった近所の警察署では、小さな子どもが腕を負傷し、「痛いがあー、痛いがあー」と泣き叫んでいた。

10 歳だった国民学校 4 年生の女性は、遺体の横たわる焦土は真っ黒で、熱いためにまともに歩けず、西南の神社へ水を求めて歩いた。「戦後 65 年、誰かに聞いてほしかった、吐き出したかった」と付け加えられた。

戦争体験の心境を十分に受け止めきれないが、何度か傾聴し理解を深める。

平和学受講生は松山・愛媛県の空襲・戦災の体験を聞き、次のような感想を述べている。

「愛媛大学が練兵場で兵士や生徒が軍事訓練をしていたことに驚いた。中高生や女性、子どもたちも銃剣を訓練したことは今では考えられない。」



＜松山空襲の体験を記録する＞

空襲経験者は城北練兵場（現愛媛大学）近くの救護施設で
大怪我をした子どもが「痛いがあー」と叫んでいたことを語った

「松山出身だが空襲のことを詳しく知らなかった。空襲後の写真に自分の家や学校があることを知って驚いた。地域の歴史としてもっと詳しく知りたい。」

「授業の後でおばあちゃんに戦争や空襲のことを始めて聞いた。子どもだったおばあちゃんが空襲で死んでいたら私はいないことに気づき感謝した。」

「なぜ戦争や空襲があったのかを知りたい。外国の空爆のことを身近に考えた。」

「平和があってこそ私たちが学び生きていけることを伝えたい。」

現代の学生、若い世代は戦争・空襲・戦災などに関心をもち、もっと広く深く知りたいと考えるようだ。私はあらためて松山と愛媛県の戦争・空襲・戦災について次のように解説し、地域の歴史への探究を呼びかけている。

2017年は松山の近代史を代表する正岡子規・夏目漱石の生誕150年であった。1895年、日清戦争従軍記者をしていた子規は健康を崩し、松山中学に赴任していた漱石の誘いを受け、下宿先、愚陀仏庵に42日間住み込んで俳句の創作に励んだ。この俳句の革命の地である愚陀仏庵は松山空襲によって焼失し、現在、再建が望まれている。司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』の主人公、



愛媛大学（旧城北練兵場）の発掘調査で
戦闘訓練の際の塹壕跡が発見された

軍人の秋山好古、秋山真之は子規の友人であった。

子規・漱石・真之より7歳若くして松山に生まれ、日露戦争に従軍し、第1次大戦後の欧州を視察した海軍大佐の水野廣徳は、1930年、日米戦の未来戦記『海と空』を刊行し、空襲を受ける東京を「逃げ惑ふ百万の残留市民父子夫婦 乱離混交 悲鳴の声」「跡はただ灰の町 焦土の町 死骸の町」と描写し、後に執筆禁止の処分を受けた。1945年、米軍が配布した伝単（flyer）には『中央公論』（1925年4月号）に執筆した水野の論文「米国海軍と日本」を引用し、「我等は米国人の米国魂を買い被ぶことは愚かなると共に之を侮ることは大なる誤りである。」と記されていた。

戦後活躍した松山に縁のある作家・早坂暁、大江健三郎らは戦争と平和を主題とした作品を発表した。

松山城、道後温泉、愛媛大学（旧松山高等学校）等諸教育機関、愛媛県庁、四国八十八ヶ所霊場、東予・中予・南予、瀬戸内地域は戦争・空襲・戦災とのかかわりがあり、平和学・戦争体験の学びの機会を得ることが出来る。平和学受講生は学びの二歩を踏み出す。



オープンキャンパスで平和学受講生が戦争体験を伝える紙芝居などを上演

【愛媛県の戦争体験記録と学生の取り組み】

愛媛県での戦争・空襲・戦災を記録する取り組みは、平和学受講生が把握しているものとして、1975年以降の宇和島空襲を記録する会の活動、2001年以降の松山市平和資料館をつくる会の活動、2005年以降の愛媛大学教員・学生、今治明德高校矢田分校、今治市の戦災を記録する会の活動などがある。

これらの取り組みや世論の高まりを背景に、1989年5月10日、1945年宇和島空襲死没者追悼平和祈念碑、2005年7月26日、松山市戦争犠牲者平和祈念碑、2008年3月、今治市戦災の碑が建立された。近年、市民と行政による主催・共催の形態やメッセージに違いがあるが、5月10日に宇和島、7月26日に松山、8月6日に今治で、被災者や遺族、市長の出席のもと追悼行事が開催されている。

松山市では1958年の世界連邦平和都市宣言、1983年の非核平和都市宣言、1993年の人権尊重都市宣言を尊重する平和・人権尊重モニュメントをJR松山駅前に建立し、1995年、戦後50周年事業と冊子を出版した。また2003年以降、平和資料展を開催し、小冊子「平和のひびき」出版、2005年には松



平和学受講生による戦争の体験を伝える紙芝居などの上演

山空襲の体験等を記録した平和ビデオ制作、2014 年以降、平和の語り部派遣事業（2016 年度、13 人登録、32 小中学校に派遣）等を実施している。

近年、松山市では平和学受講生らも加わって、戦争・空襲・戦災を記録し、継承する取り組みが行われている。

- ① 2001 年以降、松山市平和資料館をつくる会が 7 月に平和展を開催し、行政との懇談を重ね、松山市立平和資料館の設置を求めて市議会に請願した。全会派の同意がないことや市民の世論が高まっていないことなどを理由に採択に至っていない。
- ② 愛媛大学教員が戦争体験者を講師とする平和学の授業を開講し、学生・教員が戦争体験や戦跡の記録に取り組み、また高校生が戦争体験記録に取り組んでいる。
- ③ 2010 年以降、平和学受講生らが 7 月 26 日の松山空襲の日に追悼行事や調査活動を実施し、「戦争の悲惨さ、平和の尊さ」を伝える行事を開催している。
- ④ 2015 年、松山えんたい壕を考える会が松山市内に現存する 3 基の掩体壕のうち 1 基を保存することを市議会に請願し、採択され、教育委員会が調査を行ってきた。2018 年 3 月、市は審議会に市文化財指定を諮問、答申で認められ、市教育委員会は第 2 次世界大戦に関する市の初の指定文化財として指定した。

戦後 73 年を迎え、戦争・空襲・戦災などの体験者が少なくなっているが、戦争体験を語りたいという方がおられる。戦争体験者や戦災にあった親・兄弟姉妹・関係者をもつ市民が戦争・空襲・戦災を記録し伝承している。愛媛大学平和学受講生や高校生は、学生・若者が戦争体験を「聞きたい 知りたい」と関心を持ち、「戦争の悲惨さ平和の大切さ」を継承したいと言動している。しかし、愛媛県には戦争・空襲・戦災および平和を研究・学習、教育ができる施設はない。戦争・空襲・戦災を記録し、平和を展望する取り組みは今もって重要である。

【紹介】 私と平和学受講生、元受講生、市民が取り組む行事を紹介します。
全国からのご参加をお待ちしています。 * 参照：<http://kushusensai.net/>

■第 48 回空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 松山大会 プログラム(概要)

【日 程】

①米軍資料の調査・活用に関する研究会

8月24日(金) 18:00～21:00 および 8月25日(土) 9:00～12:00

②大会

8月25日(土) 13:00～17:30

12:00 開場 平和友好行事①

13:00 <開会式>

◆紹介 出席者ならびに愛媛県在住の戦争・空襲・戦災の体験者

◆挨拶 空襲・戦災を記録する会全国連絡会議代表幹事 今村修

松山大会実行委員長 和田寿博

来賓挨拶

祝電・メッセージ紹介・児童朗読

13:30 <記念講演>「松山・瀬戸内地域の空襲・戦災と博学連携」

講師；平井誠（愛媛県歴史文化博物館専門学芸員）

14:30 <発表1>松山・愛媛・四国・瀬戸内の空襲・戦災の記録 * 6人

16:30 <発表2>四国と全国の空襲・戦災の記録 * 4人

18:00 <懇親会>

8月26日(日) 9:00～12:30

8:30 開場 平和友好行事②

9:00 <発表3>全国の空襲・戦災の記録 * 8人

11:30 <まとめ>

◆大会まとめと講評

空襲・戦災を記録する会全国連絡会議事務局長 工藤洋三

◆幹事会報告

◆次期大会主催者挨拶

12:00 <閉会式>

◆挨拶

空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 松山大会実行委員長 和田寿博

③戦跡・戦災見学会（松山・今治）

8月26日(日) 13:30～16:00

【会 場】愛媛大学城北キャンパス グリーンホールほか

【主 催】第 48 回空襲・戦災を記録する会全国連絡会議松山大会実行委員会

【連絡先】790-8577 松山市文京町 3 番 愛媛大学法文学部社会科学講座

第 48 回空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 松山大会実行委員会

E-mail：<kusenikikai.matsuyama.2018@gmail.com>

TEL：089-927-9260 FAX：089-927-8820

ローカル線で行く！ フーテン旅行記 18

ーローカル線の明暗！

岡山大学工学部機械工学コース助教

大西 孝



専門は機械加工（研削）。主に円筒研削や内面研削を対象として、工作物の熱変形や弾性変形に伴う精度の悪化を防止する研究を進めている。趣味は列車を使用した旅行（47 都道府県を踏破済）。

はじめに

全国を走る旅情豊かなローカル線の中には、過疎地を走るものも少なくありません。国鉄末期から JR の発足当初にかけて多くのローカル線が廃止され、一部は第三セクター鉄道に転換しましたが、その後の 20 年程度は、廃止された路線は、ほとんどありませんでした。しかしながら、ここに来て地方を走るローカル線の存廃が議論されています。特に経営が厳しい JR 北海道は、採算の面で維持が困難な路線を公表し、路線の今後について地元との話し合いを進める方針です。その中で、かつては夕張炭鉱の石炭を運んだ石勝（せきしょう）線の支線、夕張支線は来年（2019 年）4 月に廃止されることが決定しました。一方で、他の地域に目を転じると、一度廃止されながら、一部の区間が復活したローカル線もあります。今回は明暗がはっきり分かれたローカル線をご紹介します。

1. 炭鉱鉄道の名残を求めて！ 夕張支線（石勝線）

北 海道には石炭の輸送を目的として建設された鉄道路線が多くあります。かつては炭鉱から石炭を沿岸部の製鉄所や港に運び活況を呈しましたが、道内の炭鉱の閉山に伴い、今では廃止された路線も少なくありません。石勝線の支線である通称「夕張支線」も、夕張炭鉱の石炭を運び出すために作られた路線



追分駅に停車する1両きりの夕張行。かつては構内が蒸気機関車や石炭列車で埋まったそうですが、今は多くの線路が撤去され空き地が広がっています。後ろに見える長い歩道橋がかつての広い構内の名残を今に伝えます。

です。閉山後も地域の輸送を支えてきましたが、ついに2019年4月1日に廃止されることになりました。今回は石炭を運んだ時代の名残が感じられる夕張支線を訪ねてみましょう。

石勝線は北海道の玄関口である新千歳空港駅の隣にある南千歳駅から東へ向かい、日高山脈を多くのトンネルで突き抜け帯広や釧路などの道東を結ぶ路線です。もともとは1892年（明治25年）に追分（おいわけ）から夕張駅を結ぶ夕張線として建設され、炭鉱で行き止まりの路線でした。その後、



列車の旅はやはり駅弁が必須です。苫小牧名物のほっきめは、北海道らしい逸品。苫小牧駅の他、南千歳駅でも買えます。

1981年に途中の新夕張駅から十勝地方の入り口に当たる新得までの路線が開通し、帯広や釧路方面への路線と通じた際に石勝線と路線名を改め、札幌や新千歳空港から道東へ向かう乗客を乗せた特急列車が行き交う幹線となりました。新夕張から夕張駅の間は炭鉱の閉山後も存続しましたが、今では1日わずか5往復の列車しか走らない支線になっています。

千歳駅発夕張行の1両のディーゼルカーは南千歳駅から石勝線に入り、進路を東へ向けます。南千歳から追分の間は新夕張から先の開通に併せて作られた新しい区間ですが、沿線は牧場が広がるのみで駅は一つもありません。途中の信号場



普通列車たるもの慌てぬもの。追分駅では10分余り停車し、後続の帯広行の特急（写真右の列車）へ進路を譲ります。それにしてもがらんとした駅の構内です。



最近では珍しい、列車の側面に掲げられた行先表示の看板。車体の塗装の傷みがJR北海道の厳しい状況を物語っています。窓からちらりとのぞくソフトカツゲン（北海道特有の飲み物）。

と列車は山間部に入ります。追分から新夕張の途中には駅が2つしかありません。かつては4つの駅がありましたが、利用者の減少で2016年に半数の駅が信号場に変更されました。駅の廃止からもJR北海道の厳しい経営状況がうかがえます。

新夕張からは道東方面への本線と分かれ、夕張へ向かう

で釧路からの特急とすれ違い、苫小牧からの室蘭本線と合流して追分駅に到着します。追分駅は室蘭本線と石勝線が交わるジャンクションです。かつて蒸気機関車や石炭列車であふれたであろう構内の大部分は線路がはがされ、プラットフォームの周辺以外は空き地が広がり、駅構内を横切る長い歩道橋が、かつての名残をとどめています。追分駅を出て岩見沢へ向かう室蘭本線と分かれ、牧場を眺めながらしばらく走ると



追分を出てもしばらくは北海道らしい牧歌的な光景が広がります。

支線へと足を進めます。夕張駅を出てしばらくするとビニールハウスが見えてきます。あれが有名な夕張メロンの栽培場だろうかなどと想像をしながら、列車に揺られるのも楽しいものです。夕張支線には沼ノ沢、南清水沢、清水沢、鹿ノ谷と美しい響きの途中駅がありますが、どこの駅も人の気配は



新夕張駅で道東へ向かう本線と分かれて夕張支線へ入ると、沿線ではビニールハウスが目立ちます。これが夕張メロンの畑でしょうか？

ありません。かつてはそれぞれの駅から炭鉱への鉄道が分かれていた名残で、



清水沢駅の構内を列車の最後尾から望む。左の線路横にあるホームから右の青い駅舎の間に炭鉱へ向かう鉄道が発着していましたが、いまは草が茂るだけです。

追分駅と同様に草が生い茂った広い構内が広がり、石炭産業の終焉とともに役目を終えた路線の悲哀が漂います。やがて山を登りつめた列車は終点の夕張駅に到着します。夕張駅は、もとは炭鉱の付近にあり、閉山後は夕張の市街に移転しました。さらにバブル期に、リゾートホテル

ルの真横にある現在の位置まで路線が短縮され、市街地からは遠くになってしまいました。その後、観光産業の不振により夕張市の財政状況が厳しくなったことは記憶に新しいところですが、今の夕張駅の駅舎を見ていると、炭鉱の街の苦悩が感じられます。

(岡山大学職員組合 組合だより 222 号より加筆のうえ再掲)



終点の夕張に到着。駅は列車の右後ろに見えるリゾートホテルの建設に併せてバブル期にこの位置へ移動しました。

2. 復活した鉄路！ 可部線

フーテン旅行記では、折に触れてローカル線の厳しい状況をご紹介してきました。過疎化が進む中、ローカル線に関するニュースは減便や廃止といった暗いものが多いのも事実です。ところが、2017年春のダイヤ改正では明るい話題も見られました。広島県の可部（かべ）線で、一度は廃止された区間が復活し、新たな駅が二つ設置されました。早速「青春 18 きっぷ」を片手に復活した区間を訪れてみました。



広島といえば広島風お好み焼き！可部線の列車が発着する広島駅にもお店があります。列車の時間までに手軽にいただけるお好み焼きは最高です。



電車は広島駅を出て、横川駅から可部線に入ります。横川駅を出るとすぐに太田川を渡り、しばらくは川に沿って北上します。

だが、この先の区間は開通させても利用者が少ないと見込まれ、三段峡より北に線路が伸びることはありませんでした。さらに2003年、可部から先の電化されていない区間は利用者が少ないために廃止され、可部線は横川から可部までの路線に短縮されました。ところが可部

可部線は、広島市の横川（よこがわ）駅から可部を経て、島根県の浜田市を結び路線として計画され、可部までは戦前に電化もされています。可部から先も浜田を目指して建設が続けられ、島根県境に近い広島県北部の三段峡（さんだんきょう）駅までは開通しまし



緑井駅付近で山を眺めると、砂防工事が続いています。この付近は2014年夏の土砂災害で大きな被害が出ました。

付近の一部区間の復活を望む声があり、2017年3月4日、可部から1.6kmの区間が復活し2つの駅が新設されました。廃止されたローカル線の復活は極めて珍しいことです。

新しく終点となったのは「あき亀山駅」。広島駅から

可部線の電車に乗って復活した区間を目指します。横川駅で山陽本線と分か



可部駅から先へ続く線路。2003年に一度廃止されましたが、14年の歳月を経て、ここから2駅分の区間が復活しました。

も工事が続いているところを見ると、被害がいかに大きなものであったかがわかります。

先日まで終点だった可部駅は折り返し列車専用の行き止まりのホームが撤去され、今では完全に可部線の途中の駅になってしまいました。ここからは、いよいよ新しく復活した区間に電車は進みます。復活した区



可部駅が近づくと再び太田川を渡ります。この川の対岸には、広島から三次を経て、岡山県の新見を結ぶ芸備線も走っています。

がり、時間帯によっては高校生が多く乗っています。太田川と離れ、緑井（みどり）駅の辺りで車窓左手の山を見ると、山腹のあちこちで砂防工事をしています。可部線の沿線は2014年夏の大雨（平成26年8月豪雨）で大規模な土砂災害に見舞われ、2年半以上の歳月が経過した2017年の3月で



復活した区間に電車は歩を進め、真新しいレールの上を走ります。住宅地に設けられた途中駅の河戸帆待川駅に到着。

間のレールや砂利は全て新しいものに交換されたようで、真っ白な砂利の上に敷かれた真新しいレールの上を電車は静かにゆっくりと進んでいきます。住宅地の中に新しく設けられた「河戸帆待川（こうどほまちがわ）」駅を経て、終点のあき亀山に到着しました。無人駅で駅の周辺はまだ開発途上ですが、将



終点のあき亀山へ到着。広島地区では写真の新型車両の導入も進んでいます。



あき亀駅の駅舎。駅周辺は開発途上といった感じですが、将来的には市民病院が建設されるそうです。

来は市民病院が駅の近くに移転する計画があり、多くの人に利用されることを願います。延伸区間の所要時間はわずか4分。距離にして1.6kmですが、地域の要望で廃止された区間が復活するのは意義深いことだと思います。

（岡山大学職員組合 組合だより 210号より加筆のうえ掲載）

おわりに

地方創成というスローガンが聞こえてきますが、現実的には地方の過疎化は進んでいます。ローカル線を旅していても、1990年代にはそれなりに乗客でにぎわった路線が、昨今ではがら空きという光景を目にすることもしばしばです。ローカル線とどのように向き合っていくのか、まずは地域住民の関心が高まり活発かつ建設的な議論がなされることが重要なように思います。

原稿募集

全大教時報編集部では、各大学・高専・大学共同利用機関の具体的な動き、取り組みなど多方面からの原稿を募集しております。下記投稿要領によって、積極的にお寄せください。

❖投稿要領

- 文体 自由
- 字数 本文については、以下を基準とします。

2頁	2000字	4頁	4000字
5頁	5000字	6頁	6000字
- 原稿締切 毎奇数月・15日
- 掲載 投稿の翌月号（但し、投稿が多数の場合は次号）
- 謝礼 規程により謝礼（図書カード）を進呈します。
- その他
 - ①投稿原稿は返却いたしません。
 - ②投稿にあたっては、標題、投稿者氏名、所属大学・高専、又は機関名の明記をお願いしております。

全大教時報

第42巻2号 2018年6月10日
(大学調査時報・大学部時報通算227号)

編集・発行 全国大学高専教職員組合 電話 (03) 3844 - 1671
〒110 - 0015 東京都台東区東上野 6 - 1 - 7 MSKビル7階

第39巻6号（2016年2月）までについて、冊子の購入ができます（一冊500円）ので、ご希望の方は事務局へお問い合わせください。

郵便振替口座 00170-6-18892



全国大学高専教職員組合
Faculty and Staff Union of Japanese Universities